

樹木だより

エゾヤマザクラ

5月の中ごろ、裏山の実験林に出かけた。山のとっぺんに立ち近くの山々を眺めると、散りかけたコブシの白と咲きはじめてエゾヤマザクラの薄紅色が点々と浮かび上がって、楽しいコントラストをみせていた。



花と葉はほとんど同時に開くが、このあたりの木では花のほうがいくらか早く、葉はまだ閉じたままであった。

材はねばりがあって強いため利用価値が高く、織機、高級建築の敷居、印材などに珍重された。しかし、最近では用材となる木が少なくなってしまった。

アイヌの人たちは、この木の皮をカリンパとよび、弓、山刀の鞘、矢筒をまくのに利用した。ちなみに道南の狩場山はカリンパ山の意味だそうである。

(経営科 清和研二)